

地域の「農」を活発化 ずらし農業軸に市場拡大

合同会社TOMIOファーム ユートピア社長 古屋 富雄さん



古屋 富雄 (ふるや とみお) さん
1952年南足柄市生まれ。日本大学農獣医学部、神奈川県立農業大学校卒。フィリピン国際稲作研究場など視察研修。昭和57年南足柄市役所入庁。「春めき(さくら)」[TOMIO-59(菊)]品種登録・育成者権者など。

Company Data	
起業	2016年
起業年齢	63歳
起業資金	100万円
業務内容	農業及び関連事業
本社	南足柄市塚原3032-2
HP	http://to-farmlife.com/index.html

「農ある暮らし」をメインのキャッチコピーに、合同会社TOMIOファームユートピアを設立した。起業を実現するために注力したのは農地の集積だ。借り上げや買取り。現在、野菜、花、花木など農作物の生産販売が主な事業内容。

特に企業として注目されているのは「ずらすビジネス」。農地には初冬に夏の作物の代

名詞「とうもろこし」を収穫し、真夏の花「向日葵」の花が咲く。直売所には取れたての野菜が並ぶ。冬でも花材としてニーズが高いヒマワリは人気商品。

農家の次男として生まれた。30歳で南足柄市役所に就職するまで、大学で農獣医学を学び、県立農業大学校へ。農業改良普及員資格を取得

し、国際稲作研究場、クラインガルテン(ドイツの農地賃借制度)などを視察研修。「農」に特化した活動をしていた。

市役所では「あしがら花紀行」「フラワーユートピア構想」「農地の社会化」「花による都市交流」「市民農業者制度」など提案・実行・施行した。二宮金次郎関連本の著者三戸岡道夫氏に「花の金次郎」と呼ばれている。

ある時、ソメイヨシノの開花に先がけて咲き、しかも香る桜を発見した。「春めき」が正式名。発見者であり名づけ親。2000年、品種登録・育成者権者、足柄シダレ(ヒノキ)の普及権者になった。この「春めき」は卒業生を送る桜として日本各地の小中学校へプレゼントされ全国で知られるようになった。2013年、市役所を定年退職した。



春めきを増殖し全国に向けて販売中。同時に始めたのは、地域の「農コミュニティ」づくり。フリーな立場で、香る「春めき」を全国の盲学校へプレゼントし、喜ばれている。これからは市民農園・体験農園、農家レストラン、グリーンツーリズム、講演会やコンサートの開催、書籍・CDの販売と「人生100歳」を地で行く計画を持っている。